新旧会長挨拶

会長就任にあたってのご挨拶

秋澤忠男

5月17日，日本透析医会総会後の新理事会で会長に選任頂きました．日本透析医会は都道府県透析医会連合会を母体に昭和60年に現在の名称に改称し，稲生綱政初代会長の下，昭和62年に社団法人となり，そして平成24年，第3代山﨑親雄会長の下，公益社団法人へと移行し，30年近い歴史をもつ透析医のみで構成される職能団体です．本会の使命は適正な人工透析療法を普及し，技術，安全性，有効性の向上を図り，関係者の教育研修を行うとともに，腎不全対策の推進ならびに災害時における透析医療の確保に資する事業を行い，もって国民の保健・福祉の向上に寄与することにあります．この使命実現のため，様々な事業が稲生綱政，平澤由平，山﨑親雄歴代会長の指導下に実施され，多くの成果が達成されてきました．その中でも人工透析療法に関する安全対策事業は，感染，事故，災害対策の分野で当会が中心的な役割を発揮し，実態調査報告やマニュアル，ガイドラインなどが透析現場で広く活用されています．こうした公益性の高い事業を継続し，透析医療の安全性向上に引き続き重点的に取り組んでいく所存です．

先人のご努力のおかげで，我が国の透析患者の生命予後は先進諸国中最良であり，必要とする国民に普く透析医療が提供される世界に誇れる水準の透析医療が達成されました．しかしながら，世界で最良の生命予後を示す透析患者でも平均余命は一般人口の半分に満たず，多くの合併症から患者の健康関連QOLは低下し，社会復帰や社会参加は阻害され続けています．透析患者の高齢化が進み，糖尿病や腎硬化症，認知症など高度の疾患を合併する患者が増加する一方で，腎移植医療の停滞から若い，活動的な患者も存在し，患者各人に適切なより個別化した透析医療の提供が求められています．また，現在はまだ透析患者の増加が続いていますが，近いうちに減少に転じ，高齢化，様々な合併症の発症・重症化と併せ，現在の通院透析を中心とした医療制度では対応できない患者の増加が予想されます．通院が難しい，あるいは家庭生活を送っていても，合併症や認知症等で社会的な生活ができない，あるいは寝たきりの介護が必要な患者に対してどのような透析医療を提供すべきか，あるいはできるか，は大きな課題です．

また，透析医療をこれまで支えてきた第一，第二世代の医師がそろそろ引退する時期に来ています．今後，それをどう引き継いでいくのかも大きな問題です．透析医療は3K職場だとよくいわれます．今後は透析医療費の切り下げや合理化がさらに求められ，経営は非常に厳しくなると予想されます．患者数は減少に転じ，しかも非常に手のかかる合併症を有する患者が増加し，患者個々人に対応する多様な治療が求められるというこれらの状況下で，透析施設を継承していくというインセンティブは低下し，透析施設の減少も懸念されます．そうした事態の中でいかに良質な透析医療を必要とする患者に公平に提供し続けることができるのかは，職能団体である日本透析医会に解決が求められている重要な課題と捉えています．

さらに，透析医療には優秀なメディカルスタッフの存在が必須です．透析医療が衰退すれば，メディカルスタッフにとっての魅力も薄れます．適切な施設経営のできる診療報酬を確保するとともに，将来を担う医師やメディカルスタッフの育成にも真剣に取り組んでいかなければなりません．

必要とするすべての患者に，世界で最も優れた透析医療が提供されている現在のこの状況を維持・確保できるように，そしてさらに患者のニーズと個別性に見合った良質の透析医療を提供できるように，関連団体と力を合せ，日本透析医会を運営してまいる所存です．皆様のご指導，ご支援，ご協力を心からお願い申し上げます．